

化してきています。新郎・新婦がホスト役となって両親を招待するケースや、おもてなしの気持ちを伝えるために新郎・新婦がゲスト 1 人ひとりを出迎える光景、新郎・新婦がいつでも歓談できるようゲストの近くに二人のテーブルを設ける演出も増えています。

また、招待されたゲストも「新郎・新婦と共に幸せを享受したい」という気持ちが強くなってきているため、ゲストとの一体感が味わえるキャンドルリレーやサプライズ演出で感謝の気持ちを表す等、ゲストと一緒に挙式や披露宴を楽しむことができる演出が注目されています。

(2) 一般的な披露宴の流れ

1) プログラム (例)

・迎賓

ゲストに会場へ入場してもらう際、媒酌人夫妻、新郎・新婦とその両親が入場口で挨拶をしながら迎え入れることを「迎賓」といいます。会場によって、または新郎・新婦の希望により、迎賓を行わないケースも現在では見受けられます。

・新郎・新婦入場

新郎・新婦が披露宴会場内へ入場。
(媒酌人夫妻がいる場合は一緒に入場します)



・開宴の辞

披露宴開始の宣言により披露宴が開始されます。(一般的には司会者が行います)

・媒酌人挨拶 新郎・新婦紹介

媒酌人を立てる場合に行います。媒酌人の役割の 1 つとして、両家になり代わり、ゲストへ挙式の報告と新郎・新婦の紹介(経歴や馴初め等)を行います。近年、媒酌人を立てるケースは少ないため、新郎・新婦の紹介や挙式の報告は司会者が代行する場合があります。なお、新郎・新婦の紹介方法は様々ですが、プロフィールブックや生い立ちビデオ等で対応することもあります。

・主賓祝辞

ゲストを代表して新郎・新婦へお祝いの挨拶をしてもらいます。通常、新郎・新婦側の各主賓が行いますが、共通の来賓がいる場合は、その方に両家主賓としてお願いすることもあります。

・乾杯

新郎・新婦の前途を祝すとともに両家の幸せを願い、主賓格のゲストから乾杯の発声をいただくことが一般的です。また、新郎・新婦が入場直後に乾杯を行い、乾杯の発声をもって「開宴の辞」とする場合もありますが、披露宴のスタイルによって異なります。

・ウェディングケーキ入刀

新郎・新婦と一緒にウェディングケーキにナイフを入れます。
(この演出はお色直しの後の最入場の後に行う場合もあります)

・食事・歓談

しばらくの間、ゲストにゆっくり食事や歓談を楽しんでももらいます。

・お色直し

衣裳を変えるために中座することです。お色直しの回数は新郎・新婦によって異なります。

・祝電披露

新郎・新婦がお色直しのために退場し、ゲストが歓談や食事を楽しんでいる間に披露されることが多いようですが、余興の後で披露されることもあります。

・再入場

新郎・新婦がお色直しをすませ、再度入場することです。この際、各テーブルへ挨拶周りの演出